

高田和子
SANGEN
SPACE
vol.1

三絃とマリンバの出会い

企画・構成 高田和子

常に時代の動きを敏感に受けとめ、音楽の在り方からコンサートの形式まで、新しい試みを提案し続ける三絃(=三味線)奏者・高田和子。京都芸術劇場を舞台に、三絃の新たな可能性を開いた作品の再演と、未来の姿を模索する実験的な試みを行う4回シリーズ<SANGEN SPACE>がスタートします。

高田和子
三絃、うた

ゲスト
通崎睦美
マリンバ

通崎睦美アンティーク着物コレクションをロビーにて展示します

料金

一般 前売 2,500円 当日 3,000円

学生&ユース(25歳以下) 前売 2,000円 当日 2,500円

全自由席

学生&ユースは学生証か年齢の分かるものをチケットご購入時にご提示ください

未就学児童のご入場はお断りいたします

主催/予約・問合せ

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

tel.075-791-8240 fax 075-791-9438 e-mail info@k-pac.org

2004年
1月18日(日)

15:00開演

14:30開場

京都芸術劇場
春秋座

(京都造形芸術大学内)

高田 和子

S A N G E N

S P A C E

v o l . 1

プログラムは、現代音楽の第一人者による作品～三絃弾きうたいの新しい形式を拓いた間宮芳生「小鼠太郎」や、現代音楽の技法を駆使した一柳慧「臨界域」から始まります。続いて、注目の若手作曲家による曲、日本の童謡を元に作られた鶴見幸代の小品集「nippon」をマリンバのソロで、そして三絃とマリンバの共演による、三味線をロックギター、マリンバをドラムスのようなスタイルで書かれた港大尋「おてだまとながれだま」、サハラ砂漠に暮らす遊牧民の女の歌を野田雅巳が編曲した「ベドゥインの子守歌」、まるで儀式のようなパフォーマンスを伴う野村誠「小さな平和活動」など、それぞれ趣の異なった曲目が登場します。さらに今回、委嘱・初演の神田佳子の三絃とマリンバのための新作「SとMのポレロ」が発表されます。ご期待ください。

三絃とマリンバの出会い

姿も音も両極端な二つの楽器は、今年の3月に京都で初めて出会った。ふだんはクールで端正なマリンバを演奏する通崎さんが、なぜか三絃と共演すると思いがけない一面を見せてくれる。もうひとつの仕事＝古き良き時代の着物に、現代の感性で新しい命を吹き込む通崎さんと、重い伝統を背負う三絃に、未踏の領域を開こうとする私には、どこかで響きあうものがあるのかもしれない。 高田和子

三絃とマリンバの音色が合うから、と始めたデュオではない。お互い「この人とやってみたい」そんな興味からスタートした。実は、三絃もマリンバも制限の多い楽器で、これはできない、あれもできないということが、結構たくさんある。でも、マイナス条件から生み出されるものには、底知れぬパワー、そして意外なおもしろみがあるはず。そう思っている。 通崎睦美

高田和子 三絃、うた
ゲスト
通崎睦美 マリンバ

2004年1月18日(日)
15:00開演 14:30開場

京都芸術劇場
春秋座
(京都造形芸術大学内)



© Shinichi Sakayori 2002

高田和子

箏を中能島歌一と谷珠美に、三絃を柘屋正邦に師事。NHK邦楽技能者育成会18期首席修了。東京芸術大学大学院修了後、1983年より三絃リサイタルを重ねる。ソロCDには「一枝繚乱」、「高橋悠治リアルタイム6・鳥のおそび」(ともにフォンテック)がある。93年岩城宏之指揮によるオーケストラ・アンサンブル金沢と、ドニー・オペラハウス、メルボルン、シンガポールで再演、好評を博す。さらに日本フィル、大阪フィル、神奈川フィル、と共演。ドイツ、イタリア、フランス、オーストラリア、ニュージーランド、フロリダなど、海外でのソロ公演も多数。99年和楽器プロジェクト「糸」を結成、代表となる。2000年東京芸術大学非常勤講師をつとめる。2003年、春秋座に於ける「門」の公演に参加。最近アジアのダンサーとのコラボレーション、ジャズや即興系プレーヤーとの共演など、現代音楽の枠を越え、三絃と歌の可能性を追求している。



© 中川忠明

通崎睦美

1967年京都市生まれ。5才よりマリンバを始める。1992年京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了。91年のデビューコンサート以降、自身でコンサートをプロデュースし、毎回新しい試みに取り組んできた。「通崎睦美2夜連続マリンバコンサート」(1993)で青山音楽賞、「通崎睦美マリンバリサイタル」(1998)で大阪文化祭賞を受賞。95年CD「MUTSUMI ~ Songs from Asia」(ewcc0003)をリリース。93年より演奏を始めたアストル・ピアソラ作品では、小松亮夫&ザ・タンギスツ、井上道義指揮・京都市交響楽団等、様々なユニットと共演を重ね、99年にCD「M×PIAZZOLLA」(ewcc0005)をリリース。「アイディアがアイディアに終わらず、ピアソラの音楽に新たな表現をもたらした」(濱田滋郎/レコード芸術)と評された。2002年、港大尋作品を収めた「届くことのない12通の手紙」(ALCD9029)をリリース。常に作曲や編曲の委嘱を活発に行い、独自のレパートリーを開拓している。

お問合せ: 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
tel:075-791-8240
fax:075-791-9438
e-mail:info@k-pac.org
URL:www.k-pac.org

- JR「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から→京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(京都駅から約50分)
- 市営地下鉄「丸太町」/「北大路」駅から→京都市バス204循環に乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)
- 京阪電鉄「出町柳」駅から→叡山電鉄に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩10分→タクシーで10分
- 駐車場はございません

<高田和子 SANGEN SPACE> 予告

三絃の魅力之余すところなく追求する全4回シリーズをトータルでお聴きいただくことで、三絃の多彩な響きを可能にした高田和子の魅力と、新しい邦楽の可能性を発見していただけることと思います。

第2回 「高橋悠治との仕事」 2004年6月26日(土)
ゲスト:高橋悠治(コンピュータ)、志村禪保(尺八)、巻上公一(歌)、山田せつ子(ダンス)

第3回 「^{カニヤウ}闇声~映像と光のコラボレーション」 2004年11月 ゲスト:米川裕枝(箏)、藤原道山(尺八)

第4回 「帰ってきた『糸』」 2005年5月 ゲスト:西陽子(箏)、田中悠美子(大柁)、石川高(笙)、神田佳子(打物)

